

120本植栽、並木づくり

— 宮古島環境クラブ —

下地嘉手苺公園 平一小5年が作業

なる予定で、親子が成長への願いを込めて作業した。

この取り組みは、おきなわ環境クラブとの共同主催で、県緑化助成事業「うまんちゅ協働の花と緑の美しい島づくり事業」、河川環境整備基金助成活動として実施したもの。今年2月のマングローブ植栽でつながりのある同校5年の親子が参加した。

この日は、サガリバナの2年苗木が準備され、親子が準備された植栽用のくぼみに鉢から取り出した苗木を植えつける作業に汗を流した。同公園記念樹の森遊

歩道沿いに120本を植えた。今後は親子が育成することになる。

取り組みについて儀間裕芳校長は、「マングローブ植樹の学習の流れで、関係団体とのつながりで継続して活動できた。10年後はちょうど成人式で、皆で見に来てほしい」と語った。

また、下地早穂子さんは、「育つのに長い年月がかかるが、大きくなるのが楽しみ。この宮古島で少しでも植物が育つよう祈って植えた。二十歳になって皆で花が咲いている様子を見たい」と述べた。

宮古島環境クラブ（下地邦輝会長）は20日午前、下地嘉手苺のヤーバルやすらぎの森公園でワークショップを実施した。市立平良第一小学校の5年生親子約120人が参加し、公園内遊歩道沿いに一夜限りに花を咲かせることで親しまれているサガリバナ（サガリバナ科）を植樹した。10年後にはアーケード状の並木と



アーケード状の並木づくりを目指して遊歩道沿いにサガリバナを植栽する作業に取り組む児童、父母ら＝下地嘉手苺のヤーバル公園内